

## リスク回避姿勢が強まる株式市場

(作成者：奥村義弘)

### ○リスク回避姿勢強まる株式市場

3月の米FOMCで大幅な利上げ観測が後退した。されにオバマケア代替法案が撤回されたことで米政策の執行力への懸念が高まり、為替が円高方向に転じた。4月末には、暫定予算が期限切れを迎え、5月中の予算教書詳細の議会提出などのスケジュールを考えると、トランプ政権は早期に閣僚人事等を固め、政策の遂行力を高め、議会对策に万全を期する必要がある。足元は米軍によるシリアのアサド政権軍の支配下にある軍事基地への空爆、北朝鮮のミサイル実験などで地政学リスクが高まった。またトランプ氏のドル高けん制発言なども加わり、リスク回避姿勢が強まった。

### ○通商問題や欧州選挙など緊張感のあるイベントが続く

外交面では米中首脳会談に続き、4月18日にはペンス副大統領が訪日し、日米対話が開催される。北朝鮮問題に話題が集中しそうだが、通商問題も議論の対象となる可能性がある。為替の円高懸念や、米国の対日貿易赤字削減要求が強まることへの警戒感が強い状況が続く。4月23日にはフランスの大統領選の第1回目の投票日が控えており、欧州政治リスクも意識せざるを得ない。トランプ政権の減税や大型インフラ投資など米国の政策実現性に対する懸念が後退するには時間を要しよう。

### ○押し目買いの好機か

地政学リスクや政治リスクの強まりでセンチメントが低下し、日経平均株価の高値更新は、難しい情勢である。1万8,800円近辺の26週移動平均線を大きく下回り、下値を試す展開となっている。地政学リスクは先行き読みにくい、日韓との開戦など北朝鮮の軍事行動はこれまでの動きからはテールリスクと考える。4月後半より3月本決算の発表が本格化するが、世界的な景気回復や好調な企業業績が、株価の反転のきっかけとなることを期待したい。

### ○外部環境に左右されにくい情報技術関連などに魅力

市場エネルギーに乏しく、海外投資家は3月第5週まで7週連続の売り越し。物色はマザーズや小型株の優位が続いている。またマーケットのリスク回避モードが強まり、ディフェンシブセクターに関心に移りつつある。株主還元期待の大きい好利回り株などが物色対象となる可能性がある。またトランプラリーの反動から、外部環境にされにくい情報技術株などのハイテクセクターが人気を集めている。業績好調が予想される、ロボットやFA、自動運転、3D-NAND、半導体製造装置関連、5Gなどにはテーマ性があり、関心を集めよう。

## ◇ 株価、為替、金利の推移



(注) 直近値は4月12日 (出所) CAM作成

### [重要開示事項]

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社（以下「CAM」）調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。